９月　結婚記念日　おめでとうございます

9月15日	夏　明義会員ご夫妻	9月17日	横井　彦会員ご夫妻
9月20日	吉光　淳会員ご夫妻	9月22日	池上裕也会員ご夫妻
9月24日	田中浩弥会員ご夫妻		

９月　入会記念日　おめでとうございます

9月 1日	平野浩希会員	令和 4年	9月 1日	山川正時会員	令和 4年
9月 2日	川口栄計会員	平成22年	9月 3日	清水一人会員	平成27年
9月 3日	川井宗次会員	令和 2年	9月 5日	網干康史会員	平成25年
9月 5日	米澤　勉会員	平成25年	9月12日	松田禎胤会員	平成25年
9月16日	林　博之会員	平成22年	9月21日	田中浩弥会員	令和 5年

IM第4組　松尾 治（まつお おさむ）［東大阪西RC］



生年月日	1949年1月11日（77歳）
職　業	松尾捺染株式会社　代表取締役
ロータリー歴	1990年1月 入会

1996－97年度　幹事
2008－09年度　会長
2012－15年度　地区ローターアクト委員会　委員
2014－19年度　地区青少年交換委員会 委員
2015－16年度　会長
2019－20年度　地区青少年交換委員会 委員長

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー、米山功労者

IM第4組は13クラブから成り立ち、多様な人材を擁する自由闊達な組織です。例会の形もクラブ運営の手法も様々ですが、ロータリアンとしての奉仕に対する熱い思いは共有しています。地区ガバナーと各クラブの想いをつなぐべく、ガバナー補佐としての役割を自覚し活動してまいります。

これからの予定

9月24日（木）休会
9月26日（土）クラブ職業奉仕委員長会議
9月26日（土）公共イメージ向上セミナー
9月27日（日）米山奨学生レクリエーション
10月1日（木）例会・定例理事会
10月3日（土）クラブ国際奉仕・社会奉仕委員長会議
10月3日（土）ロータリー財団セミナー
10月8日（木）例会・ガバナー公式訪問
10月9日（金）IM第4組会長幹事会（金輪会）
10月15日（木）例会

【お知らせ】

９月２４日（木）は休会です

２０２６．９．１７　№２３２９

WEEKLY BULLETIN OSAKA NAMBA

大阪難波ロータリークラブ週報



２０２６-２０２７年度　国際ロータリー会長
オラインカ・ハキーム・ババロラ
会長メッセージ「持続可能なインパクトを生み出そう」
（第2660地区ガバナー　横田孝久）

今日の卓話	次回の卓話	ロータリー４つのテスト
９月１７日（木）	１０月１日（木）	言行はこれに照らしてから
テーマ　「自己紹介/和牛のあれこれ」	テーマ　「治安情勢と防犯対策について」	１．真実かどうか
卓話者　吉田　智 会員	卓話者　大阪府南警察署生活安全課長 宮ケ原祥三様	２．みんなに公平か
	卓話担当者　山岸宣雅 会員	３．好意と友情を深めるか
		４．みんなのためになるかどうか

第１０回例会　　本日のプログラム

開　会　（点鐘）　通算第２３２９回例会
・ロータリーソング「ROTARY」
・歌　岡本優香さん
・ピアノ　倉田栞名さん
　髙山理帆さん（交替制）
・来客紹介　友好委員
・ストレッチ

会　食
・会長報告　森田　納会長
・幹事報告　三島敏宏幹事
・委員会報告　各委員長
・出席報告　出席委員
・ニコニコ箱報告　ＳＡＡ
・卓話

閉　会　（点鐘）

♪　R-O-T-A-R-Y

R-O-T-ˇA-R-Y, That spells Rotary.
ROTˇARY is known on land and seaˇ.
From North to Southˇ,
From East to Westˇ,
He profits most ˇwho serves the best;
R-O-T-ˇA-R-Yˇ, that spells Rotary.

ニコニコ箱報告	
前回の合計	￥６０，０００
本日までの累計	￥１，２３３，５８０（86%達成）
9月末の予算額	￥１，４２０，０００

出席報告			
前回　９月１０日		3週前 8月20日	
会員総数	７８名	出席免除を除く MUを含む 修正出席率89.33%	
出席会員数	５１名		
出席率	６９％		

大阪難波ロータリークラブ　例会日時　毎週木曜日　１２：３０
創立　１９７６年８月５日　例会場　スイスホテル南海大阪7階　芙蓉の間
会長：森田　納　幹事：三島敏宏　会報・雑誌委員長：内園彰人　事務局：安部亜希子
事務局　〒542-0076　大阪市中央区難波5-1-60　スイスホテル南海大阪５階
TEL　06-6632-3956　FAX　06-6632-3957　e-mail　osaka-namba@poem.ocn.ne.jp

９月は「基本的教育と識字率向上月間/ロータリーの友月間」です

前回の記録　　第９回　９月１０日（木）

★来客紹介：藤井一樹友好委員

秋田会員ゲスト　大鶴次郎様
米山奨学生　　ガワドルジニャムドルジさん


大鶴次郎様


ガワドルジニャムドルジさん

★会長報告：森田会長



落語の起源と歴史的背景について
落語は「噺（ストーリー・オチ）」と「話し手（語り部）」が組み合わさった伝統芸能です。その起源を紐解くと、文章と話し手の双方に興味深いルーツがあります。

1. 噺（内容）の起源
噺の原点は日本最古の物語『竹取物語』に見られます。段落ごとにオチのような締めくくりがあり、これがのちに『今昔物語集』などの説話集を経て、江戸初期の『醒酔笑（せいすいしょう）』という笑話集へとつながり、今日の落語の原型となりました。
2. 話し手の起源
話し手のルーツは古代の語り部ではなく「説教僧」と考えられます。仏教が庶民へ普及する際、難解な教えを諭すため「初めしんみり、中おかしく、最後はありがたく」といった娯楽性を取り入れた布教が行われました。『醒酔笑』の作者である安楽庵策伝（あんらくあんさく伝）も浄土宗の説教僧でした。
3. 落語家の登場と時代背景
「噺を話す」という職業としての落語家が登場したのは元禄時代（江戸中期）です。当時、秀吉以来の物流システムを継承した大阪は「天下の台所」として経済の中心地となり、武士以上に力を持つ豪商たちが文化を支援しました。こうした豊かな町人文化（上方文化）の中で、近松門左衛門や井原西鶴らとともに上方落語が開花し、のちの江戸落語との違いを生む基礎が築かれました。

★幹事報告：三島幹事



1. 週報に、定例理事会の議事録を掲載しておりますのでご確認をお願いいたします。
2. 来週例会終了後、松尾ガバナー補佐、脇ガバナー補佐エレクトをお迎えし、クラブ協議会を開催させていただきます。各委員長の方はご出席お願いします。ご都合の悪い方は代理出席をお願いいたします。
3. 地区大会のご案内と登録料の請求書をいれさせていただいております。12月11日リーガロイヤルホテル、12日国際会議場で開催されます。地区大会は全員登録となりますので、登録料のお振込みをよろしくお願いいたします。また、地区大会はミスターミズバズセッションの対象となりますので、出欠確認のため申込書にご記入いただき事務局へご提出ください。
4. ロータリー研究会のご案内をいれさせていただいております。オラインカ・ハキーム・ババロラRI会長ご夫妻をお迎えし、12月1日～4日までの4日間リーガロイヤルホテル大阪にて開催されます。ご出席希望の方はお申込み書をご提出ください。
5. 秋の第24回ロータリー全国囲碁大会のご案内です。11月21日東京市ヶ谷で開催されます。ご参加希望の方は事務局までお知らせください。

★委員会報告

◇クラブ会報・雑誌委員会：内園委員長



「ロータリーの友9月号のご紹介」
縦P2. JR九州のまちづくり
　P7-10. 浅沼さんの紹介
横P4. 世界ポリオデーに向けたメッセージ
　P6. ロータリーブランド
　P14-17. ロータリーの友地区代表からの一言

◇国際奉仕委員会：河内会員



2027年ロータリー国際大会のお知らせです。2027年6月26日～30日スペインバルセロナにて開催されます。登録料の早期割引について。
2026/9/17-21　＄595
2026/9/22-3/31　＄795
2027/4/1-6/30　＄895
登録は個人にてお願いいたします。参加人数により、旅程など計画したいと思います。

◇友好委員会：川浦委員長



11月4日友好ゴルフを予定しております。

◇地区RYLA委員会：山川委員



8月31日勝尾寺第二回目打合せ
9月9日RYLA委員会

★ニコニコ箱報告：松田副SAA



森田　納：Hテーブル懇親会、谷口先生お手配ありがとうございました。お土産までいただき、ありがとうございました。
三島敏宏：Hテーブル懇親会、お招きいただき感謝いたします。谷口先生お心遣い頂戴しまして有難うございます。
白野陽一：家内誕生日、自祝。
中川静夫：Hテーブル懇親会では皆様ありがとうございました。
荒山義雄：ありがとうございます。
日髙雅哉：例会欠席お詫び。
山岸宣雅：例会欠席お詫び。
井原純平：本日も宜しくお願いします。
田邉雄一：2回休みましてすみません。
石井かおる：甲子園お疲れ様でした！！

★大阪難波ＲＡＣへのニコニコ箱報告

森田　納：ボードゲーム例会頑張って下さい。
三島敏宏：例会頑張ってください。
清水一人：今日例会よろしくお願いします。

累計￥１５９，０００

★卓話　テーマ　「大阪関西万博における韓国パビリオンの建設について」
卓話者　　河　宗啓　会員

　こんにちは、河でございます。
本日は万博の話をさせていただきます。
　万博への参加は、当初は全く考えていませんでした。国の事業であり、規模の小さな会社が関われるものではないと思っていたからです。ところが、ある方から「国際博覧会は5年に一度、世界中の人が集まる場であり、これに関わることで街の認知度が飛躍的に上がる」と説かれ、考えを改めました。
しかし実際に動き出すと、必要な費用の大きさや窓口の分からなさで一度は諦めかけました。行政に相談しても門前払いが続き、ようやく協力を申し出る道が開けたのも、開催の前年になってからのことです。見積もりを出しても採算の合わない内容ばかりで、多くの会社が受注に及び腰になる中、海外パビリオンは各国が自前で費用を負担する仕組みだと知りながら、期限を区切って交渉し、なんとか工事を受注することができました。
　着工時には水道も電気もない造成地のような状態で、環境配慮の基準を満たすための費用もかさみ、苦労の連続でした。要人の非公式訪問への対応では、警備体制を一から整理して急場をしのぎ、開催期間中には座席用クッションの搬入や、装飾品を仕上げるための徹夜作業など、想定外の難題にも次々と直面しました。それでも関係者の協力もあり、大きなトラブルや事故もなくやり遂げることができました。何より印象に残っているのは、現地の方々が想像していた以上に親切だったことです。完成した際には涙が出るほど感謝され、それまでの苦労がすべて報われる思いがしました。
　開催後は来場者も増え、開催前に散々批判されていた飲食なども、実際に足を運んでみると評判とは違い好評でした。表舞台には出ない形で無償の力を注いだ多くの人たちがいたからこそ、成功に至ったのだと思います。支払いをめぐるトラブルも一部で耳にしましたが、その多くは元請けと下請けの間の問題であり、契約どおりに誠実に対応すれば防げるものだと感じています。
　今はこの経験を糧に、次に開催が予定されている国の博覧会にも、何らかの形で関わりたいと考えて動いています。これほど大きな博覧会の工事に携わる機会は、これから先そう何度もあることではないと思います。関わった経験そのものが、世界のどこへ行っても通用する、一生誇れる財産になると感じています。

